東海昌新報
夕刊 日本
作満日 企業人行政機構
地番二川目丁四号(役所)北東
就業日 日曜祭日休行 役

關西ペン

資材愛人護

東海昌日新報 昭和十六年十月十九日 (水) 日九 (一)
第一万四千七百三十五号

敵を蹴散らし西進

次々に敵陣を奪取

【○○基地十八日發同盟】十六日午後、西伊縣、當麻地區（何れも高安東方八粁）等の敵依七千四百を擊滅した我が軍は、殘敵の掃蕩を續けつゝ十七日午前四時半より次々に北方十粁、東方八粁の一帶に蟠踞する敵陣に對し攻撃を開始、午前九時には既報の如く西北二十粁の村落を占領、引續き午前九時半には流合西北二十粁の村落を衝り、江口部隊は十七日午後四時半迄に江口（在德河西方八粁）を、十八日午前九時二十分在德河西方十粁の若宮に到達したが敵の殿軍は既に撤退したあとであつて西方に潰走中である

潰走の敵を猛追

【江西○○發電十八日發同盟】敵九、百七師團の一部約五百を在德河（高安東南）一帶に殘置し主力は在德河西方六粁に陣地を占領、高安西方六粁に陣地を占領してゐる我が部隊、浜、栗畑、四軒並に龍安、鯰谷の諸部隊は十八日午前十時半總攻撃を開始、殘敵の掃蕩に當つてゐる

敵陣營に致命的打撃

【○○基地十八日發同盟】中支那派遣軍報道部發表

【○○基地十八日發同盟】敵は十七日午前四時半より各地に於て逆襲を企圖したが我が軍は之を撃退しつゝ十七日午後四時半より各地に於て逆襲を企圖したが我が軍は之を撃退しつゝ十七日午後四時半より各地に於て逆襲を企圖したが我が軍は之を撃退しつゝ十七日午後四時半より各地に於て逆襲を企圖したが我が軍は之を撃退しつゝ

江西戰線宜豊を空襲

海鷲長驅重慶を急襲

【○○基地十八日發同盟】中支那派遣軍報道部發表

【江西○○基地十八日發同盟】前田部隊の爆撃機○○機は十八日江西某所に大爆撃を敢行、敵の重要軍事施設（鐵道關係）に對し猛爆を加へ多大の戰果を擧げて全機無事歸還した

【○○基地十八日發同盟】中支那派遣軍報道部發表

【○○基地十八日發同盟】十八日重慶に來襲した敵機は戰爆聯合の一部約二十機で、之に對し我が戰闘機隊は直ちに邀撃戰を展開、敵機を重慶東北方上空に捕捉し、之が撃墜を企圖したが、敵機は我が戰闘機隊の攻撃を避けて雲中に逃げ込んだ爲め、我が戰闘機隊は敵機の離脱するを見て攻撃を中止した

國民組織の前衛隊

翼贊會の改組方策

內閣政治力強化も表面化

【東京發同盟】歐洲戰爭の新展開に對處する國內態勢の强化に關し、近衛首相は十八日の閣議後、翼贊會の改組に關する具體案を練り、これを十九日の閣議に提出することとなつたものと見られ、平沼內

昭和十六年十月九日（水曜日）　臺灣日日新報　第一万四千七百三十五號　（第三種郵便物認可）

社說

東亞民族間の流血を戒む

挙ろ共榮圏確立に協力せよ

二

昭和大東亜戦争は、去る十五日、南方アジア諸民族に対し、果たしてもつ宣戦を布告したところあつた。その内容たる領土の獲得でもなければ、また政治的な野心でもない。ひとえに東亜民族の解放と、その繁栄のために、大東亜の諸民族が、自らの手をとなつて、大東亜の建設に邁進することを、呼びかけたのである。

日本帝国は、東亜の諸民族が、日本政府の眼中にして、単独な繁栄を望むことは、断じて許さない。また同胞の諸民族が、米英の支配から脱して、自主独立の地位を獲得することを、心から祝福するものである。

日本帝国は、東亜

御遺品に深き御感慨

臺南州各種物産を台覽

國分各商第二高等女學校參觀上の「感激」と題し「感激は各學校を通じて同じであつたが、殊に臺南州廳に於ては午前九時半頃から同廳會議室に於て各種物産の台覽があつたが、兩陛下には一々御手に御取上げになつて御覽遊ばされ、御説明を聽かせられ、又御質問に對し奉つた各關係官吏は恐懼感激の餘り、御説明申上げるにも聲が震へ、御手が慄へて居たと云ふ有樣であつた、兩陛下には午前十時二十分頃同廳を御出門遊ばされ、次いで臺南市公會堂に於ける臺南州下各界代表者との御會見の爲め同公會堂に御成りになつた、同公會堂は午前九時頃から續々と參集する各界代表者で滿員の盛況を呈し、玄關前には數百の市民が兩陛下の御成りを奉迎せんものと集まつて居た、兩陛下には午前十時五分頃同公會堂に御到着遊ばされ、玄關前に於ては知事官房主事の御説明に依り、臺南州下の各種物産を台覽あらせられた後、同公會堂内に於ける各界代表者との御會見の場所に入らせられ、先づ臺南州知事の御説明に依り、臺南州下の各種物産の概況を聽か

國姓井の大甲に
鐵峰寺を建立
大甲に史蹟保存會設置

臺中州大甲郡大甲街鐵砧山麓に鄭成功が明朝の再興を念じ建立した鐵峰寺は、地元有志の間に同寺を史蹟として保存しようとの氣運があり、また同地に於ける國姓井の傳說と共に大甲の名所として内地人本島人を問はず參詣者が多く、この程同寺を中心として大甲に史蹟保存會を設立することとなり、十九日午後一時より同寺に於て發會式を擧行することとなつた、當日は臺中州知事、臺中州警務部長、臺中州内務部長、臺中州學務課長、臺中州社會課長、臺中州教育會長、臺中州勸業課長、臺中州土木課長、臺中州衛生課長、臺中州警察課長、臺中州理蕃課長、臺中州庶務課長、臺中州會議員、大甲郡守、大甲郡内各官公吏、大甲郡内各學校長、大甲郡内各團體長、大甲郡内各區長、大甲郡内各保正、大甲郡内各有志、大甲郡内各青年團員、大甲郡内各女子青年團員、大甲郡内各小學校兒童等多數參列の下に發會式を擧行、會長に州知事、副會長に郡守、理事に州内務部長、州學務課長、郡内務課長、郡學事主任、郡社會教育主事、郡教育會長、郡青年團長、郡女子青年團長、郡内各區長、郡内各保正、郡内各有志、郡内各學校長、郡内各團體長、郡内各小學校長、郡内各小學校兒童代表等を評議員に推薦、會則を決定、次で會長より左の如き會務報告があつた後、午後三時より鐵峰寺境内に於て鄭成功の遺德を偲ぶ大會を開催、大甲郡内各小學校兒童の鄭成功に關する作文朗讀、大甲郡内各小學校兒童の鄭成功に關する唱歌合唱、大甲郡内各小學校兒童の鄭成功に關する劇の上演等を行ふ筈である

◇會務報告

一、本會は大甲郡内に於ける國姓井の大甲に關する史蹟を保存し、且つ鄭成功の遺德を偲ぶ事を目的とす

臺灣日日新報 第一万四千七百三十五號 昭和十六年三月十九日（水曜日） （昭和十五年五月九日第三種郵便物認可）

我精鋭高安縣城入城

防城、企沙を猛爆撃

南支陸鷺恵州を爆撃

歸州、巴東湖北省を猛爆

日満支重要産業の連絡機関を設置

資材技術勞力確保に努む

東路線全く貫通

全週式を華々しく擧行

グアム島防備費

第四次國防追加豫算署名

ル米大統領演説を獨逸は痛烈に冷笑

米參戰せば英と同じ運命

トルコの回答

獨政府に手交

伊紙も"横柄な聲"嗤ふ

英潜水艦大半撃沈

開戰以來の重大損失

中共恫喝的な通牒

重慶當局は大動搖

獨の春季大攻勢

大西洋全海面に展開說

佛印總督更迭か

後任はバーヂエス氏か

定例閣議

閣議決定事項

全國稅務課長會議

平和克復に備へて"

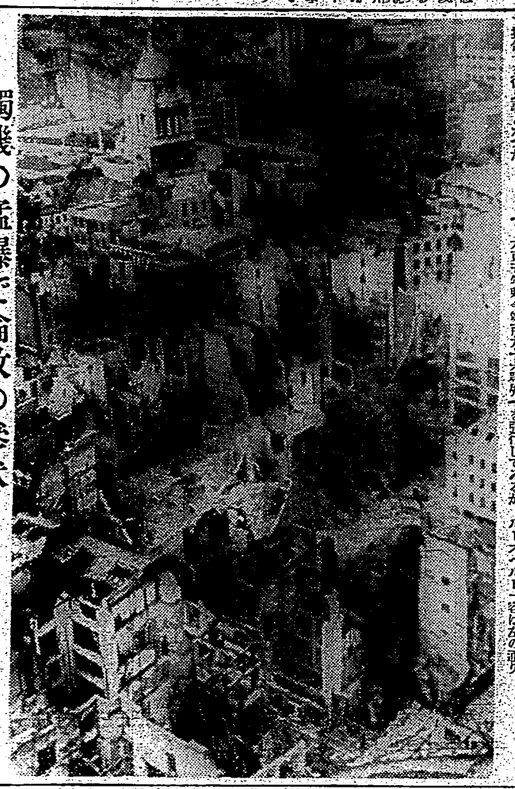
公共事業六年計畫

米大統領議會へ報告

英、ベルベラ奪還か

佛印へ米大使會見

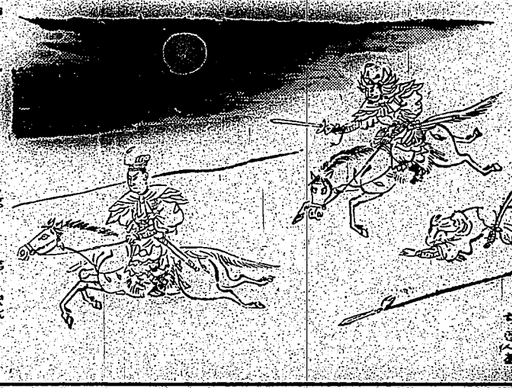
獨機の猛爆で倫敦の慘狀



二國志

（444）

吉川英治 作
矢野橋村 畫



風呂の御用は巴商會へ
各種風呂釜 在庫豊富
陶器風呂
東京・神田 巴商會
大阪・堺 巴商會
特産地 北條町 金森商會
巴風呂
（カタログ呈）

特輯 更生染色集
絞染と友禪染 應用の祕訣一切
國民學校特輯 家庭の國民學校 二年生の家庭指導法 一流法律家の人情問答
特輯 婦人子供ワンピースドレスの作り方
（特別附録）女兒用ドレスの實物大型紙
春の簡單服！
特輯 航空母艦の未來組織座談會
佐野周二軍曹と戰線一問一答
現地報告 南京の古屋信子
皇軍慰問 上海より友軍慰問
二十日（木）頃着 四月號
北地方 登校前に一讀願ひます 東京神田 三省堂 振替東京八〇番 定價六十錢

靖國の社頭に額く

西尾大將 英靈に凱旋報告

【東京發同盟】春雨に濡れた十八日の午前九時、靖國神社の參道を一歩一歩踏みしめながら、その社頭の鳥居に額づいて行つた、勇ましい姿は、關東軍司令官兼關東長官西尾壽造大將である、大將は、この日午前八時半、宮城二重橋前の廣場で、拜賀の儀を終へると、その足で、一路靖國神社に參拜したのである、大將は、自動車から降り立つた境内の參道で、出迎へた、宮司鈴木一雄氏の案内で、拜殿に進み、二禮二拍手一禮の作法で、恭しく拜禮を終へると、更に、本殿に進んで、昭和の大御代の武勳赫々たる、數多の英靈に對して、謹んで、拜禮を捧げた、大將は、この日、靖國神社に參拜するのを、一日千秋の思ひで、待ち侘びてゐたのであつた、大將は、この日、午前十時から、偕行社で、開かれた、偕行社總會に、出席して、その後、午後一時から、靖國神社の、社務所で、開かれた、靖國神社總會にも、出席して、その後、午後三時から、宮城内の、東溜の間で、開かれた、拜賀の儀にも、參列して、名實ともに、多忙な、一日を、送つたのである、

海洋少年團を視閱

總督 蘇澳より瑞芳に向ふ

【臺東特電十八日發】觀閱官方は久方振りしつゝ秘密裡に實施する筈であつたが、今回中南大佐の牲になつたが、今回井上總督が第十七回誕辰に當るに際し總督の觀閱を迎へて慶祝の意味で、又は一つない協調の實現をなしたこの日最大の催物をなした、この日最大の催物をなした、この日最大の催物をなした、この

正しい母乳教育

歯茎と歯の力を養う事

山下俊郎

風呂の焚き方

野菜を美用に

入学前の子供に文字を教え可否

古教書の消毒

嫁入和の悩み

康に身も心も踊る健

花と共に訪れる

がさりと消えて

歯茎を強くする

構成を真剣入業

治療を施して

歯茎と歯の力を養う事

歯茎と歯の力を養う事

歯茎と歯の力を養う事

暁の町 (122)

武田麟太郎作　林唯一畫

「工場の内外（七）」三日後、西川と工場にゐると事務員々間とその名はいかめしいが無にも知られてゐない新聞の、社長と云ふ肩書きの名刺を差し出した男に、取材を求められた。いつぞや市役所の廊下で呼つたのだ。

「――此間に逢ふやうに云へ」と、突っ放した。

どうしても話がして貰はなければならないことを、西川はみつきりと感じて知つてゐた。だが、自分が出れば、先方の思ふ壺に陥ちることが出来ないと、なんとか無用な衝突をあくまでも避けるために、自分のやうな年齢の男を出すやり方がいいのであると、一切のそのやうなことは世事に長じてゐる。

「――どうしても社長にお逢ひしたいと云ふんです。……社は相馬しのぶさんとかのことに関して……」

「――何、相馬しのぶさん？」

「――はア、そのやうに申してをりました」

「――ちゃなぜ早く通さないか！」

我ながら、少し勝手な云ひ分だと思つて苦笑したが、取次ぎの者は感服して引きさがつた。

「――ヤア、先日は！」

やがて、五分刈に頭を短くした、かなり筋骨の大きい男が入つて来た。あまり等つない紳士を期待してゐた。ワイシャツそも除分汚れてゐた。三日目の眼は鋭いと云よりは疲労に光つてゐながら、時に右脚を取まであげるのも、気味の悪い感じであつた。

「――あんたが西川さんで。……まちがひありませんね」

「――どうしてです」

「――ちよつと疑問があるもんだから、……」

そして、暫く疑ひ深げに、あはせたり取つてつけたやうに笑つた。

「――誰もそう聞きしてないでせうた」

掛けようとはないのに、どつかと腰こに据えた。

「――どんな御用件です」

「――しのぶのことをお尋ねたいに、西川は思く聞きたかつたが、

「――ヨテ、待ち給へ、酔かお茶を持つて来ると眠るから、それが酒つてからにしよう」

短絡的な形であつたが、重ねられた茶をつと飲んで、

「――はんたんがあの美人を射止めてうまくやつてるの噂だと」

「――なかなかかたも御ちやや無いか」

西川はくすくすと笑つた。

「――そて、そのしのぶさんのことだが、わし世間なかなかでたうとふひいとこうが、ことに困つたことが出来た、さうとは限らつた。西川さん、あんたはしのぶさんに催い感情れた器があるの御存じかね」

いやと、工場主任音を鳴つた。

「――いやく、めめでたう、世間で

擔架を待つ戰友達

我等救容隊の姿に狂喜

（写真）

（写真）

（写真）